

⑥ 地域の安心安全を守るために

— 安全で安心して暮らせる 地域づくりをめざして —

水谷東小学校区自主防災会連絡会（富士見市）

団体概要

設立年度：平成8年度
人口：6,476人
世帯数：2,739世帯
(平成23年4月30日現在)

<http://www3.plala.or.jp/mizutanihigashi>



▲ 発足式参加者が地域内を行進！

地域の状況

地理的状況：平野部

埼玉県富士見市水谷東地域は、荒川の支流である新河岸川と柳瀬川の合流点に位置し、池袋から電車で20分程度と交通の便に恵まれている地域である。

地域の概況：地域面積は、72.9haであり、昭和38年頃から急激な宅地開発が行われた。狭隘な道路を挟んで木造住宅が密集しており、高齢化率も25%を超えている。

過去の災害：昭和41年6月水害～台風4号（床上浸水689棟、床下浸水138棟）

昭和57年9月水害～台風18号（床上浸水786棟、床下浸水18棟）

昭和60年5月火災～全焼7棟、半焼1棟

平成3年9月水害～台風18号（床上浸水322棟、床下浸水455棟）

平成6年4月火災～全焼3棟、半焼2棟

○組織結成の経緯

- 平成7年に起きた阪神淡路大震災の教訓から、水害への備えだけでなく、地震に対しても十分な対策が必要であると考え、神戸から「語り部キャラバン隊」を招いて体験談を聞いた。また、平成8年には神戸を視察させていただき、住民から防災のまちづくりを学び、地域4町会の防会が「水谷東小学校区自主防災会連絡会」を設立し、地域全体で安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組むこととなった。
- 水谷東地域は、これまで水害との戦いに共同して取り組んできた。また、阪神淡路大震災の教訓も共有していたことから、特段の苦労もなく設立できたものと考えている。
- 設立にあたっては、行政担当者の全面的なバックアップを得ることができた。

○特徴的な取り組み内容

- 防災意識の普及啓発 各町会自主防災会毎に、年に2回程度の防災会議を開催し、防災隊員を対象にDVD等を活用して防災意識の啓発を行っている。
- 防災訓練 毎年12月第1日曜日 地域全体（隣接市の一部を含む）の総合防災訓練
毎年3月最終日曜日 非常災害時対応訓練（災害時要援護者支援訓練）
この他、各町会自主防災会ごとに、初期消火訓練等を中心として防災訓練を実施
- 災害時要援護者対策 市（防災担当・福祉担当）、町会、自主防災会、社会福祉協議会、民生児童委員が「水谷東助け合いネットワーク」を組織し、これまでの自主防災活動と社会福祉協議会や福祉行政の見守り運動等との連携により、支援を必要としている人の把握と支援活動に取り組んでいる。
- 自主防災組織のリーダー養成のために、埼玉県主催の講座等に積極的な参加を行っている。
- 防災訓練をはじめとする各種事業には、市関係者が必ず出席している。



▲各町会防災訓練（消火訓練）の様子



▲災害時要援護者避難訓練の様子

○組織の形態

代表幹事（1名）－副代表幹事（1名）－幹事（2名）－各町会自主防災会長
－各町会自主防災会員

○活動の成果や問題点など

- 小学校区全体の防災・防犯活動をより効果的かつ効率的に実施するため、地域住民だけでなく、学校、幼稚園、保育所、商店会、企業等との連携が容易になった。
- 地区体育祭や公民館活動等を通じて、各町会相互の協力体制が敷かれていたが、防災・防犯と災害時要援護者支援のための取り組みを通じて、地域の連帯がより強固になった。
- 毎年2回「水谷東地域安心安全ネットワーク会議」を開催し、活動報告を行うとともに地区内の様々な課題についての話し合いを行っているが、その席には市長をはじめ、市関係各課、警察、消防にも出席いただいているなど、この活動が行政等からも注目されている。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

- 自主防災会連絡会活動の中心的担い手は、60代～70代となっており、高齢化が進んでいる。組織の継続的な発展のためには世代交代が不可欠であるが、現状では後継者が育っている状況ではない。

【課題解決のための取り組み計画】

- 各町会と連携し、20代～30代の若年層に対し、体育指導委員等の行政委嘱委員に抜擢する。また、小中学校のPTA役員経験者を町会役員に推薦するなど、世代交代のための環境づくりを推進していく。
- 道路整備等のように、地域での解決が困難な課題については、行政との連携を図っていく。